

令和3年度第3回新宿区外部評価委員会第3部会 会議概要

<開催日>

令和3年8月10日（火）

<場所>

本庁舎6階 第3委員会室

<出席者>

外部評価委員（5名）

山口道昭、桐山早苗、藤川裕子、松永健、安井潤一郎

事務局（2名）

廣井副参事（特命担当）、原田主任

<開会>

【部会長】

それでは、第3回の外部評価委員会の第3部会、始めさせていただきます。

それでは、本日、部会の取りまとめということで、計画事業の評価、それから、経常事業に対する意見の取りまとめを行いたいというふうに思います。

それから、全部終わるかどうかわかりませんが、本日もし時間があるようでしたら、個々の事業の評価を踏まえまして、施策の評価、取りまとめを行いたいというふうに思います。

それでは、議事に入る前に、本日の配付資料の確認をお願いいたします。

【事務局】

事務局でございます。

本日の配付資料でございますが、外部評価チェックシートということで、皆様から出していたいただきましたシートをまとめまして、配付をさせていただいております。

配付資料については以上でございます。よろしくをお願いいたします。

【部会長】

それでは、部会の取りまとめを行います。委員の皆様には外部評価のチェックシート、施策評価、計画事業評価、経常事業取組状況というものが配られております。このチェックシートにつきましては、各委員の評価、意見というものが記載されていますので、これをもとに部会

としての評価、取りまとめを行いたいということです。それで、各項目ごとにご意見のあった委員の皆様の意見が書かれておりますので、順番にそれらの補足説明をお願いしたいということをおもっております。順番ですけれども、計画事業の4事業を計画番号順に評価の取りまとめを行いたいということになります。

89番、文化国際交流拠点機能等の整備、90番、新宿の魅力としての文化の創造と発信、そこでは新宿フィールドミュージアムの充実、それから、2つ目が和を伝えるプログラム、それから、91番の事業なんですけれども、漱石山房記念館を中心とした情報発信、それから経常事業がありますが、こちらのほうは意見があった事業について番号順に取りまとめを行いたいということになります。それでは、始めてまいります。

それでは、まず最初は89番、文化国際交流拠点機能等の整備ということです。

順番なんですけれども、私が一番最初に書いてありますので、私から説明のほうをしていきたいというふうに思います。両施設なんですけれども、整備ということが対象事業であったわけなんですけれども、開設時期の関係から、昨年度、令和2年度の実績で評価をするということになっております。そして、令和2年度はコロナ禍と、これに伴う緊急事態宣言が発せられるなど、異常な事態ということになります。こうした事情から、評価に関しても、通常の手法が取れないのではないのかということです。ただし、運営状況については、コロナ禍の影響といったものはありましたけれども、それなりの利用状況が認められるということで、計画どおりというふうに評価してもいいのではないかと、そんなふうに私のほうは見ましたけれども、皆さんにご意見いただいておりますので、順番にご発言をお願いしたいというふうに思います。

お願いをいたします。

【委員】

おはようございます。一応、コロナ禍で休業だったり、また時間短縮だったりという状況を鑑みても、認知度、その間の準備とか、またそれに向かって取り組んでいたことと、あと、利用者を含めて鑑みても、まずまずだったかなというふうに思っています。また、スタートラインですので、これからがどうしていくかということが問われてくるかと思っておりますので、引き続き状況を見ながら、工夫しながら、あと利用者のやはり意見を大いにお伺いして、そこを取り組みながら進めていくことが大事かなというふうに感じました。

【部会長】

ありがとうございます。

では、順番に、よろしく願いいたします。

【委員】

四谷のクルーセについて、独立行政法人国際交流基金が入居したということにより、文化交流拠点としてのにぎわいをもたらすことができたというふうに評価されているんですけども、区の施設であるということを知るように、区民に対して、誇りを持てるというか、そういうようなアピールができてもいいのではないかと考えています。ほかの区でも、港区が気象庁か、他とジョイントしてホールを作ったりとか、これから新宿区もいろいろほかの企業とかジョイントするようなことが増えると思うので、区の施設であるというのを区民にアピールしてもいいのではないかと感じました。

【部会長】

よろしいでしょうか。新宿は民間の施設もたくさんあるわけなのでですけども、もっと区の施設であることをアピールしたほうがいいのではないかとということですかね。

あと、私のほうでも指定管理者の問題も出ていると思うんですけども、そういった点で、運営が誰かということと、誰が設置主体なのかというようなことをはっきりさせたほうがいいのかということなのかなというふうに思います。

それでは、次、よろしく願いいたします。

【委員】

実はやはり先生と、あるいは各委員と同じようなんですが、やはりコロナ禍ということで大分いろいろな事業がやりにくくなったり、中止になったり、延期になったり、ただし、その中でも大分工夫を凝らしてやっておられるところをすごく感じました。実際いろいろな意味で全部見てみると、やはり外国人がお見えになっていないということで、直接関係ないですけども、オリンピックでも選手は来られましたけれども、観客はおられないということで、日本、特に新宿の魅力のよさが、今日の新聞でも書いてありましたけれども、選手村から出られないので、一歩も見られなかったということで、残念だということが選手の中でありましたので、私も実際、新宿の魅力はすばらしいなと思っているんですけども、それがお伝えできなかったのが残念だと思っています。今後の問題としては、今後、恐らくコロナも収束すると思うんですけども、これを機会にいろいろなやり方を変え、それで、やはり外国人に来ていただいて、日本の、あるいは新宿の魅力のよさを見ていただきたいなと、そう思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

それから、補足で何かございましたら、よろしく願いいたします。

【委員】

皆さんがおっしゃられたところと全く同じで、休館もあつたり、また開設で令和2年度の単年度だけで、その実績で評価というのは正直、難しいというよりも、評価されるほうの立場からすると、つらかったんじゃないのかなというふうに思っています。ただ、できなかっただけじゃなくて、いろいろなことをやろうとしているところは見えていましたし、それは評価していいのではないのかなというふうに思っています。やっぱり場所としては、新宿区内のスポーツ関係の施設としては、スポーツスクエアが一番いいところにありますから、これから先、コロナが収まった後、それでどういうふうに進んでいくかということ、やっぱり区民の皆さんの意見も取り入れながら進められたらいいのではないかと、これは今後の方向性に対する意見となるかもしれませんが、そんなふうに感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、内部評価では計画どおりということでありましたけれども、我々外部評価としても、今の皆様の意見を聞いておりますと、外部評価でも計画どおりというふうにしていいのかなというふうに思いましたが、よろしいでしょうか。何かご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

どうもありがとうございます。それで、評価はそのようにしておいて、そのほか、今後の取組ですとか方向性ですとか、意見もありますので、こちらを少しまとめていきたいというふうに思います。

これもちょっと今後の取組の方向性に対する意見、私が最初ですので、私からちょっとお話ししたいというふうに思います。一般的な指摘ではありますけれども、皆さんおっしゃっているように、コロナ禍ということで、これは、ちょっとまた感染者が増えていますけれども、そのうち収まるだろうというふうには思っております。来年度ぐらいにはいくら何でも通常の状態になっていくのではないのかというふうに思いますが、そういったとき、区と指定管理者の契約の在り方というものがどういうものなのか、これはちょっと整理をしたほうがいいのではな

いのかというふうに思います。通常の場合だったら、これをやってくれということでありまして、指定の方法については事業収入、料金収入で賄うやり方もあるでしょうし、また、料金だけで賄われなければ、区から委託料というような形、指定管理料というような形でお金を出すというようなこともあるかと思うんですけども、それは通常の場合と、このような異常な状況と、結構変わってくるんだらうというふうに思います。それから、何をするのかということについても、当初は契約というようなことでありますので、これをやってくれということをお願いするわけですけども、それがコロナの関係で一般の事業ができなくなって、その代わりにオンライン事業をするですとか、そういった状況になってくるわけありますので、この委員会では指定管理の委託の在り方を見ているわけではないので、一般的な指摘になるのかもできませんけれども、その辺の整理といったものは必要なんだらうなというふうに思ったところであります。

今後の取組、今後というのがどうなるのか、このような異常な事態というものがまたあるかもしれないというようなことで、そういった意味でありますので、来年度以降、通常になれば、直接は必要ないのかもしれないかもしれませんが、やはり整理をしていく必要はあるのではないかと、ということで、ちょっと付記をしたらいいのではないのかというのが私の意見でございます。お願いします。

【委員】

今後の取組に関しまして、やはり利用者の声というのが一番大事になってきますし、どの施設においても、引き続き熟慮を重ねていかないと継続していけないということになりますので、やはりその辺の声をたくさん拾うことは、施設全般を捉えても、大事になってくる部分だというふうに思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。今年度はコロナ禍の中での利用というようなことで、来年度以降は通常になれば一般の利用というふうになっていくのかなというふうには思いますが、いずれにしても利用者の声は大事でありますので、それを取り入れながら運営してもらいたいということになります。

次、お願いいたします。

【委員】

やはりコロナ禍ということで、今までいろいろなことが工夫されて、やれなくなったんですけども、この際、恐らくコロナも前向きに見て、ある時点では収まるような感じがするんです。そういうことで、今までのよさはそのまま残して、これからやはり、先ほどおっしゃられたような、利用される方というか、区民の方の意見を聞きながら、よりよいイベント、あるいはスポーツ施設ということで、やってもらえたらいいんじゃないかと。そのためには、我々はあちこちに顔を広げて、耳をそばだてて、やはり皆さんにも、区民にも、ちょっと知識を投げかけることが必要ではないかと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

方向性は区民の意見、聞いてくれということで、ここは意見ですので、取りまとめというか、何か異なったことを言ってしまうのは部会としてはおかしくなってしまうかもしれませんが、そうでなければ列挙するという方向でいいのかなというふうに思いますので、こんな意見があったということで区のほうに伝えるということにしたいと思います。

その他意見、感想というようなこともありますので、ご意見書いていなくて、ここでぜひ述べておきたいというものがあれば、それについてもおっしゃっていただいて結構ですので、何かあれば、よろしくお願いたします。

【委員】

この施設自体が、スポーツができるということが開設のときのコンセプトに入っており、何か大会が呼ぶような施設の作りではないという気がいたしました。それともう1点、先生が今おっしゃられた、スポーツ、今度のオリンピック見ても、自分たちが今まで見たことないというか、あまりそんなに近しくもなかったスケートボードがあんなに人の気持ちを熱くさせる、ですから、できればこれから先、新宿区として、新しいスポーツの紹介場所という切り口も入れていかれたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

あとはございますか。よろしいですか。

確かにオリンピック、こんなスポーツがあったのかというようなところも結構ありましたので、設備面もあるのかと思いますけれども、設備面で対応できるのであれば、そういったスポーツも利用できるようにしていく、また、ここかどうか分からないけれども、ここでは設備面でちょっと無理だということがあれば、別にそういったことができるような施設を整備するというようなこともあるんだろうというふうに思いました。

ご意見については一応、今日とあさって、全部終わって、その後、ご意見を伺ったものをもう一回このシートの中に入れ込むというようなことをやりますので、その中でちょっと確認のほうをしていただきたいというふうに思いますので、この場で文章化するというのはちょっとできないと思いますので、そんなやり方をしていきたいというふうに思います。

それでは、一番下のところですかね、その他意見、感想というようなところがありますので、よろしく願いいたします。

【委員】

チラシのほうとかも見させていただきまして、団体以外の個人のデスクワークとか、仕事で使えたりとか、いろいろな目的使用が分かりましたので、やはり用途に応じて皆さん、いろいろな目的を、スポーツをしたりとか、あとは何かちょっとビジネス的なことをやるとかで、いろいろな目的があるかと思しますので、やはり幅広いジャンルで利用ができるというインフォメーションですね、これがやはり大事になってくると思いますし、また、新しい施設ということで、ちょっと私も活用してみたいなというのは率直に思いました。

意見です。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

では、続きまして、お願いいたします。

【委員】

先ほど委員もおっしゃられましたけれども、オリンピックでも優勝される方とか入賞される方は相当苦勞してやっておられるんです、研究、研究してね。それから、ノーベル賞をこの間取られて亡くなられた方も、いろいろ読んでみると、やはり今までのやり方じゃなくて、だんだん自分の時代に合ったようなやり方を考えていくということなので、皆さん、意見が出ましたけれども、これからはやはりいろいろな意味で、区民の方が喜んだり、あるいはたくさんお見えになったりするようなことを企画しなきゃいけないんじゃないかなという感じを受けまし

た。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

その他ございますか、補足で。お二人の委員の感想を聞いておきますと、かなり区民にとって期待の大きい施設なんだというようなことが分かると思いますので、その旨、区のほうに伝えていきたいというふうに思います。

それでは、この89番の事業はこれで終わりにいたしまして、次に行きたいと思います。90番の①ですかね、新宿の魅力としての文化の創造と発信です。新宿フィールドミュージアムの充実というようなところになります。こちらのほうは、核たる事業が中止になったというようなことで、区のほうでは内部評価では評価できないというふうにされているところでありまして、外部評価として評価はしないということで、今後の取組ですとか、そういったところの意見ですね、その辺について書かせていただくというところでありまして。

これも私が最初ですので、ちょっとお話しさせていただきますと、核たる事業ですね、新宿フィールドミュージアムが中止となったことで事業評価の対象外となった事業ということになります。今後に向けてスマートフォン等の小型端末への対応、イベント検索機能の強化、情報端末や動画配信への対応が強化されました。こうした取組はコロナ禍収束後も継続することが望まれる、コロナ禍を転じて吉となすというようなことが求められるのではないのかと、そんなことを意見として書かせていただきました。

続きまして、いかがでしょうか。よろしくお願ひいたします。

【委員】

新宿フィールドミュージアムのパンフレットに関しましても、この間、東京都庁の観光情報センターというところにも置いてありましたので、結構いろいろな方が目にする機会というのは多いのではないかというのを感じました。やはり、ここにも記載させていただきましたように、新宿の広報とか、あとはやはりそういったパンフレットがありますと、より目にする機会が多くなりまして、また、どういうことをやっているかという関心度も高まってきて、認知度も深められると思いますので、そういった目に触れる情報発信のほうも引き続き行っていただきたいなというふうに感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。従来型の広報も大事ですけれども、来年度以降、通常の状態になつたとしても、やはり動画配信ですとか、新たな取組が今年度されましたので、そちらのほうを継続したらどうなのかというふうなことなのかなというふうに思いました。

続きまして、いかがでしょうか。お願いいたします。

【委員】

私のほうとしては、いろいろな意味でここ一、二年、コロナ関係で止まっていて、これからはいよいよ再出発だということで、恐らくいろいろな意味でも皆さん、気持ちを引き締めるような感じだと思います。そういう意味でも、いろいろなことに対して積極的に、やはり区民のための、自分たちのための、あるいは外部の方が来てもらって喜ばれるような計画、企画して、やってもらいたいなと思っております。具体的に何をすればいいんだということになると、私のほうはちょっとはっきりしませんけれども、やはり新しいものを企画してやったらどうかと、そう思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

スマートフォン、結構これも5Gですとか動画配信環境、整ってくるだろうというふうにありますので、そういった対応と、あと検索機能ですね、こういったものをしっかりやってほしいということですね。これも、こういった意見があったということで、特に矛盾する意見があるわけではありませぬので、こういった意見を伝えるということにしたいと思っておりますが、何か補足ございますでしょうか。

お願いいたします。

【委員】

ちょっと施策評価のところいろいろ書いてしまったので、フィールドミュージアムの充実のところには書けなかったんですけども、やはり集客事業として、新宿のにぎわいを作るための文化事業ということだと思わなければならないんですけども、それに対してどのぐらいの効果があったのかとか、そういったことが確認できるような、そういった仕組みも必要ではないかなと思えました。フィールドミュージアムについて、行った後の効果についても検証できるような取組方法も必要ではないかと感じました。

【部会長】

フィールドミュージアムについて、どれぐらいの効果があつたのか、検証できるような仕組みが必要とのことですね。

あと、よろしいですかね。

あと、その他意見、感想のところもありますので、よろしく願いいたします。

【委員】

オフィシャルガイドブックではいろいろ見やすいように絵がついていたり、あとカラー版だったりとかで、家族がみんなでそろってどこかお出かけ行こうといったときの参考になるガイドブックになっていましたので、皆さんで楽しめるいい機会のきっかけづくりになっているんじゃないかということで、見ていて私もとてもわくわくしましたので、いいガイドブックだなというふうに感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

あとお一方、お願いいたします。

【委員】

私のほうは今、いろいろな意味で、文章というよりも、先ほど言われたような絵に描いて皆さんに訴えるという方法がいろいろあるんですね。そういうことで、やはり言葉で言うのもいいけれども、何かやっているイベントとか、そういうスポーツ関係を漫画化みたいな感じで、皆さんが分かりやすいようなものを見せて、それで、自分らもこれはこういうのだよということが理解できるような感じで、我々、聞かれても答えられるような、そういう感じで皆さんが楽しんでいければいいなと思っております。

【部会長】

ありがとうございます。

そもそも情報が届いていれば、内容はいいんだけど、ちょっと発信力不足のところも多少見られて、届いていないところもあるんじゃないのかなということではないのかというふうに思いますので、できたものだけではなくて、作る過程で情報をもっと発信したほうがよろしいんじゃないのか、そんな課題もあるのかなというふうに思いましたので、そんな意見があつたということでお伝えできればというふうに思います。

【委員】

ホームページ等々なんですけれども、今、ホームページを見るという人、あんまり多くないんですよ。実は商店街でLINEの公式アカウントを使ってやったところ、驚くような数字が出て、その延長線上に、YouTubeにアップするお店訪問というチャンネルを作って、そうしたら、具体的な話をしますと、中井商友会というハッシュタグを付けても誰も見に来ない、それがグルメ訪問とやったらあっという間に1,000超える。ハッシュタグのつけ方1つで、実はその中華屋さんに言われたんだけど、自分がつけたら七、八十だったのが、中学生の娘に、駄目だ、こんなハッシュタグじゃ、と言われて、娘にハッシュタグつけさせたら、あっという間に1,000を超えると、やっぱり時代ってこうなんですなと言われた部分があるので、せっかく、令和2年度は参加の団体が呼べなかったんですけれども、100以上あるんだとしたら、その人たちの中での連携というのは私は大きな力になるんじゃないのかなというふうに思ったものですから、意見として出させていただきます。

【部会長】

ありがとうございます。ユーザーがどういうものなのかというようなところだと、発信する側とちょっと年齢構成が多分違ったりなんかしていて、しっかり捉え切れていなくて、空回りになるようなこともあろうかと思しますので、ユーザーから意見を聞くって大事ななというふうに思いましたので、そういったことも意見としては書かせていただいたほうがいいんじゃないかというふうに思いました。ありがとうございます。

それでは、次へ行ってよろしいでしょうか。計画事業の90の②ということで、和を伝えるプログラムに移りたいと思います。こちらのほうも実施できなかったということでありまして、内部評価では評価できないということになっておりまして、外部評価の対象からは外れております。ただし、今後の取組等についてはご意見を書く欄がありますので、それを紹介していきたいと思っております。

私からということなんですけれども、これも核とする事業が中止になったということで、事業評価の対象外ということなんです。しかしながら、何がしかのノウハウは身につけたようでありますので、これらの継承といったものが他の事業に変わっても望まれるのではないのかと、前と同じですけれども、コロナ禍を転じて福となすというようなことが求められるのではないのかというふうに私は感じました。

ご意見お願いいたします。

【委員】

やはり和というのは日本人ならではの大事な文化だと思います。学生の部活動では華道、茶道、書道がありますし、とても趣があり、大事なものだと思います。これを今回、外国人観光客の方とかいっしょになかったですけども、また私たちがコロナ禍を収まって外へ出ていく機会に恵まれたときに、やはり日本の良さというものを言葉で表現したり、あとは言動とかで見えていただく唯一の持っている宝物だというふうに私は感じていますので、やはりこれはそのときやる、やらないは別としても、日本人のこの慈しむ心という、この素敵であり大事なものを伝えていくものというのは、時期は関係ないと思いますので、やはりずっと継承して育んでいくというものやっていくということは大事だなというふうに感じています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

よろしく願いいたします。

【委員】

同じようなことなんですけれども、やはり和を伝えるプログラムとか、そのノウハウというのは、別の形でも展開して、機会があれば展開してほしいと思います。説明を受けたときに、区内のホテルのロビーや高島屋前などを利用して行う予定だったということだったんですけども、新宿の観光案内所などもあるので、そういうところも利用したらどうかなと感じました。ただ、ちょっと新宿観光案内所はまた別の施策事業になるので、ここでは触れないほうがいいのかなとも感じたんですけども、個人の感想として、そう感じました。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私もやはり、今お二方の意見とある程度同じなんですけど、日本のやはり茶道とかそういうもののよさを発揮することなんですけれども、やはり寂しいのは、早く外国の方がお見えになって、よさを知ってもらいたいなど、それも言葉じゃなくて実際、体験していただいて、お帰りになってから、やはりその国々で広めてもらいたいというのがあるんですけども、なかなかそれがいつになるか分かりませんが、でも、私としては、しつこいようですけども、

もうそろそろ収束するんじゃないかという感じは、期待はしております。すると、やはり新宿の魅力あふれる歌舞伎町のほうも大分最近、変わってきているんですよね、いろいろな意味で、よさが違った意味で変わってきているので、そういう面もやはり区としてはクローズアップして、やってもらえたらいいかなと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。オリンピックのボランティアですとかについては結構、ネットの書き込みなんかを見ておりますと、かなり評判よかったようなことがありますので、日本のおもてなしの精神みたいなものが発揮されていたんだろうというふうに思います。その基礎となるところが和というようなことで、華道、茶道だけではないと思うんですけども、そういったベースがあつてのおもてなしの精神ということにつながっていったんだろうというふうに思いますので、また外国の方、日本にいらっしゃる機会が、コロナが収まれば、増えてくると思いますので、そういったところを伝えられるような取組があればいいだろうと思います。場所についても検討していただきたいというようなことがありますので、これも意見としてお伝えできればというふうに思います。

補足ございますか。よろしいですか。

ありがとうございます。それで、これもその他意見、感想、順番にお願いいたします。

【委員】

もう重複になってしまうんですけども、やはり日本のよさですね、これを片時も忘れずに持って大事に育てていくという、おもてなし精神もそうなんですけれども、やはりその方、そのものの指針になってくると思いますので、そういうものを常日頃思いながら、人に思いやりを持って接していくということにも、この和の心というのはつながってくるかと思っておりますので、やはり人を大事にするとか人を思いやるということも踏まえると、やはりこういった和を伝えるプログラムというのは、またいいきっかけになるかなというふうに感じております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

【委員】

私のほうもやはり最近、新聞なんかを見ている、オリンピックばかり出すのも申し訳ないんですけども、各国の外国人の方がやはり日本のよさを言っていたというところが、やはり日本人のいいところが外国人には見えるんじゃないかということで、そういう意味でも、和ということで、日本の特色あるものを、やはりいろいろな意味で形を変え、品を変え、広めていくことが必要でないかということを思っております。イベントとか、そういう施設関係は、そういうことがあるんだなど。四谷のスポーツセンターは外国の方が、最近はお見えになりましたけれども、いらっしゃるということをごらほら聞きましたので、今後改善すれば、そういう意味では、そういう方々もやはり来て楽しめるようなイベントとか、そういうことをやっていただければ、なお一層、私もすばらしいものになるんじゃないかと感じております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、これはこれでよろしいですかね。

次にまいりたいと思います。計画事業91、漱石山房記念館を中心とした情報発信ということになります。こちらは内部評価もされておりますね。これもご意見が分かれたところもあって、計画どおりと計画以下、ありまして、私だけが計画以下にしておりますけれども、取りあえず意見の取りまとめというようなことで、計画どおりで見ている委員から、ご発言をお願いいたします。

【委員】

漱石山房記念館のほうをコロナ禍で休館の前に訪ねることができまして、私自身もやはり肌で感じて、どういう施設かというのを見てきたかったものですので、行ってまいりました。やはり対応される方もとてもよかったですし、また今回、スマートアプリでポケット学芸員という音声ガイド付きの運用が始まりまして、それをちょっと試してみたりとか、また新たなそういった企画が設けられてありましたので、やはりそれも情報発信の一つだと思いました。また、企画に関しても、いろいろ個別にまた計画なさってやっていますので、やはり全国規模で夏目漱石を捉えた場合においても、新宿区でも発信している一つの重要な記念館じゃないかというのを感じましたので、やはり区民の方が気軽に訪れられる場所と、あとはやはりそういった意味も含めて、誇りを持って皆さんが感じてもらうということが大事なんじゃないかなというの

を、施設を後にして、思いました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

【委員】

夏目漱石という非常に全国的にネームバリューの高い作家の施設ということで、非常に一定の以上の年齢の人には人気ですけれども、やはり若い人にはなじみが少ないので、アニメとか漫画を生かしたイベント、読書感想文コンクールなどはとてもよい取組だと思います。ただ、やはり、例えば美術館と比べて、作家の作品、作家の記念館というのは、視覚的に引きつけるものを並べるというのはとても難しいことではないかと思います。ですので、いろいろなイベントがうまくいくときもあれば、いかないときもあるし、施設についてはやはり、その記念館を見に行くというよりも、やはり展示物を見に行くというものなので、そういう意味では、記念館に人を集めるだけではなくて、そこを拠点とした情報発信の場という、そういった展開の仕方があってもいいのかなと思いました。

【部会長】

ありがとうございます。記念館にはコロナの関係であまり来られなかったと思うのですけれども、別の事業といおうか、ポケット学芸員ですとか、そういったことはやっていたということで、昨年度はそうだったということだと思わすけれども、これは昨年度の評価だから、そういったことでよろしいのかなと思いました。

続きまして、お願いいたします。

【委員】

私のほうは今、実を言うと、出張所はいろいろな意味で会議ができませんので、漱石山房記念館を借りて会議をやるんですけれども、そのときに地元の町会の会長さんが非常に夏目漱石の記念館をすごく熱心に語られるんですね、そういうことで、何かやっぱり地元としては相当力を入れているということが考えられます。私どもも、ちょっと地元なんですけれども離れていたんで、最近そんなに来ないんじゃないかなと言ったら、冗談じゃないよ、早稲田の駅からたくさん来るんだぞなんて言われて、えっと思って、学校の生徒、お孫さんが早稲田小学校ということなんですけれども、早稲田小学校でもそういうことがあって、それで、今年初めて、

去年はできなかったんですけども、小学校、中学校を対象にして、榎木地区で地元のイベントというか、一番印象に残ることをしゃべるということで、地域センターのお祭りのときですね、今年やれると思いますけれども、そのときに発表する予定なんですけど、やはり皆さん、熱心に、物すごく、そういういい文章の印象を子供たちが残ることにおいて、やはり夏目漱石というのはすばらしい人だなということが分かってくると思います。

ただ、先ほど委員がおっしゃったように、やっぱり時代、時代で大分、夏目漱石というのも、一時のところでは忘れかけているというか、そういうところが見受けられます、正直な話。でも、そういう意味では小学校、中学校は、これから大事な子供たちですから、そういうことを、この人はこういうことをやったんだよ、言葉じゃなくて、文章を覚えたり、そういう企画あるごとに挑戦することにおいて、よさを知っていただくということがすごく大事なような感じで、地元からよさを発揮して皆さんに広めるということが必要ではないかと私は思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。結構、事業中止になった部分もありますけれども、それに代わる事業ですね、無線LAN環境の整備ですとか、スマートフォンアプリ、ポケット学芸員あたりは非常に評価が高いなというふうに感じます。

まず、私が計画以下と一応しているんですけども、ちょっと理由についてもお話ししたいと思います。コロナ禍と、これに伴う緊急事態宣言の影響を受け、十分な事業展開ができなかった事業でありました。しかしながら、情報発信イベントはこうした状況の中でも工夫しながら実施されております。また、代替的な事業としての無料公衆無線LAN環境の整備が前倒しされるなど、努力の跡が見られるということでした。こうした事情をどのように評価するのか、これが問題になるのだろうかというふうに感じました。コロナ禍などの事情は十分に理解できるものの、計画の実施状況という観点からは、計画どおりとの評価はできないんじゃないのか、こんなふうにしたんですけども、何が計画なんだろうか、その計画に即して実施すれば計画どおりであって、その計画が実施されないとなると、他のことを代替的なものをしたとしても計画どおりとはいかないのではないかと、こんな見方もできるかと思ったので、私は計画以下というふうにしたんですけども、ちょっとこの辺は議論したいなというふうに思いました。

それに先立って、委員のご意見もお聞きしたいと思うので、ご発言お願いできますでしょうか。

【委員】

先生おっしゃるように、計画どおりのことができなかったんだから計画どおりとはなかなか言い切れないというのはよく分かるんですけども、ただ、それじゃ担当者がかawaiiそうだなというのも気持ちとしてはあります。見えますか、これはメンバーズクラブの会員証なんですけれども、すぐにパンフレットと申込書を送ってもらいました。一生懸命頑張っているなというふうに思いました。これは新宿歴史博物館、林芙美子、佐伯祐三、中村彝、それから漱石山房と、全部メンバーズクラブでいろいろな催物等々が見学できるものなんですけれども、正直言って、全部使えるというのは知らなかったものですから、すぐに年会費を振り込ませていただいて、今日、持ってきた次第なんですけれども、ただ、今回のこのコロナ禍でやれることいっぱいあるなということが大きかったような気がしています。私は商店会から出させていたでいるんですけども、飲食店大変だ、大変だと言っているんですけども、大変だからこそ何か変えていこうということで、信じられないような面白いことをやり始めた連中がいっぱいいますので、漱石山房もせっかくこんなにあるわけですから、やっぱり横の連携、担当課は一つですけども、十分そういうところもやりやすく、行けるのではないのかなというふうに思いました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、ちょっとここは取りまとめが必要なのでありますが、取りあえず、私だけが計画以下で、他の4人の委員のご意見は計画どおりでありますので、計画どおりというふうにしたいなというふうに思います。

ここでは、その他というか、今後の取組の方向性あたりにもご意見がありますので、そちらのほうを見ていきたいと思えます。

お願いいたします。

【委員】

やはり夏目漱石は私の中でも、高校の国語の教科書にも「こころ」という題名のものがありまして、それを教科書の中で学びをしたんですけども、こんな文を書いた方が新宿区で生まれて、最期、ついの住みかとしたということを聞きまして、非常に親近感が湧いたのと、やはり実際に記念館を訪れたときに、自筆で書いてあるものが展示されていたのを見まして、

もうお会いすることはできないですけれども、とても、やはり新宿区ってすばらしいなど、そこに住所を置いて暮らしていくことができるというのは、こんなにすてきなことだなというのを、すごく、高校時代のことを来館したときに思いまして、やはり知らないというのはちょっと怖いことであって、やはりもっと目を外に向けていかないと、いろいろなチャンスだったり、羽ばたくことだったりということを見失ってしまうんだなというのを感じて、いい機会だったなというのは思っています。やはり老若男女問わず、どこでもきっかけというのはあるかと思えますので、より多く自分に降り注いでいけるような、やはり外に向かっていかないと、そういうものを得られないと思いましたので、今回こういう記念館を中心とした情報発信ということなんですけれども、やはりこれに問わず、いろいろなことがそう感じられた、一つのいい経験をさせていただきました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。全国発信ということも大事だということかなと思います。

続きまして、よろしく願いいたします。

【委員】

夏目漱石というとてもネームバリューがある人の記念館ということと、あと、こういった施設というのはやはりできた当初というのはすごく人を集める、夏目漱石のついの住みかということで、全国的にも人が来たり、初年度は人がたくさん来るものですが、やはり次の年、次の次の年という、なかなか人が来なくなるものだと思います。その中で、年間の目標数が7万3,000人というとても大きな数字で、それは歴史博物館の3万3,000人に比べても非常に多いので、この目標値というのが果たして適当なものだったのかどうか、もし根拠とかあれば、そういったものも検討して、目標値を立てていただきたいと思いました。

評価の理由のところにもちょっと書いたんですけれども、小泉八雲のイベントなどをしたときに、小泉八雲の公園などもリンクする企画をしたらどうかと書いたんですけれども、たまたま区役所から大久保のほうに抜けるところに小泉八雲記念公園というのがあって、小泉八雲が住んでいたところというので、たまたま通りかかって非常に、ギリシャ風の壁画があったり、とてもすてきな公園なんですけれども、どうも立ち寄る人もいないような、立地的にもそういうところなので、せっかくだったら小泉八雲と夏目漱石記念館のスタンプラリーではないですけれども、そういったこととか、あと、たまたま3年ほど前だったかと思うんですけれども、

ちょうど記念館ができたかできないかぐらいに戸山図書館で夏目漱石の展示みたいなことをやっています、小さな展示だったんですけれども、そういうのは多分、図書館の担当者の方がたまたま担当者の力量でやられたことだと思うんですけれども、そういったことともリンクして、新宿区はいろいろな施設を持っていて、いろいろなことがあるのに、そういうのを生かし切れないというか、とてももったいないなど、何か作って終わりみたいなどころもあるので、もうちょっと、お金をかけるんじゃなくて、創意工夫でできることもあるのではないかなと感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。7万3,000人の根拠というようなことなのですけれども、はっきりとは分からないんですけれども、平成30年度の実績が7万8,000人強ということで、多分それを見て、令和元年、令和2年、7万3,000人というふうにしているんだろと思いますが、初年度が7万8,000ということで、物珍しさがあってたくさん来る、翌年度以降は少し減るんじゃないのかというようなことで5,000人ぐらい減らしたということなんですかね、というふうにしているんですが、これは私がそう思っているだけなので、本当にそうなのかというところが問題なのかなというふうに思いました。いずれにしても、令和2年度の実績は2万4,000人ぐらいですかね、ということで、33%ぐらいということで、かなり低くなっておりませんが、これはコロナの影響なんだろうというふうには思いますが、いずれにしても、もともとの目標値がどうなのかということ、それから、コロナがなくなればその数値まで復活するんだらうかというようなことが疑問だったということで、このような意見があったというようなことでご紹介できればいいんじゃないのかというふうに思います。

続いては、よろしく願いいたします。

【委員】

私のほうは、夏目漱石の音声ガイドですか、4か国語の運用を開始し始めるということで、やはり日本だけじゃなくて世界にでも広げるような感じをやっているということがいいんじゃないかと。もう一つは、やっぱり今、夏目漱石に関連ある有名な作者、要するに、小泉八雲みたいな方も一緒に交えた、先生方が講演をさせていただいているような状況で今、あります。いろいろな意味で、夏目漱石というのはやっぱり明治時代のすごい有名というよりも、卓越した作者なので、その辺をやはり大々的に皆さんで広めていくということが必要なんですけれども、

それをやはりいろいろな形で、4か国語を広めたり、あるいはその当時の仲間の作者を交えた思い出話とか、そういうようなイベントをやっていただくという意味で、夏目漱石がずっと忘れられないでいられるんじゃないかと。あと、子供たちの場合はやはり時代、時代において、いろいろな意味で形が変わってくるので、子供たちにもやはり現代に分かりやすいような夏目漱石のよさを説明してということが必要じゃないかと思っております。そういう意味では、イベントをやっていくことで、来ていただくということは非常に必要ではないかと思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。日本人でも若年層に対する取組というか、コンクールみたいな形での取組ですとか、それから、関連というようなことで、漱石だけではなくて、もう少し広がりがあるんじゃないのか、そういった取組ももっと必要ということの意見を書かせていただければいいのかなというふうに思いました。

何か補足はございますか。よろしいでしょうか。

そうしますと、その他意見、感想がありますので、よろしく願いいたします。

【委員】

今回、初めて漱石山房記念館のほうに来館しまして、パンフレットで見ると、やはり実際に足を運んでみるのとは違うというものは感じたということと、あと、そのよさが分かったという上でも、自分もやはり知っている方々に情報発信して、一緒に誘ってみたりとかで広めていくということも大事だなというふうに感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

やはり同じようなことなんですけれども、時代にマッチした、明治のときの夏目漱石の時代のよさを現代の状況、環境を見ながら、子供たちに伝えていくということが必要ではないかということを感じております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

そうですね、夏目漱石自体は有名だとは思いますが、その家族含めてというようなことになるとあまり分かっていないと思いますので、来て見ていただくことでそういったことが分かるということかなというふうに思います。しかも、日本語だけではなくて他の国の言語でも紹介がされるといいのではないのか、そんなことかなと思いました。

補足的な意見がございましたでしょうか。よろしいでしょうか。

では、ありがとうございます。

では、次、経常事業のほうに参りたいと思いますが、これは全て意見を書かなければいけないというようなところではありませんで、何か意見があったら書いてくれということでありませけれども、意見があるものが多いのかなと思いますので、順次ご紹介していきたいと思ます。

最初は557番の名誉区民選定委員会の運営ということであります。

こちらのほうもお二方、ご意見ありますますので、お願いいたします。

【委員】

ここにも書かせていただいたんですが、老若男女問わずということで、いろいろなジャンル、海外で活躍されている方もたくさんいらっしゃいますし、知らない人も、なかなか日の目の当たらない方も含めて、いろいろなことでこの名誉区民ということでまたスポットを当てて違う発見ができたりということもあるかと思ますので、この名誉区民選定というのは結構一つのスポットが当たる重要なものになってくるかなというふうに感じていますので、いろいろな知らなかった人も表に出す上でも、何かこういった一つの機会というのが、なればいいのかと思ましたので、意見として書かせていただきました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私のほうはやはり名誉区民という名前が相当やはり、文化に功績があった人ということで非常に責任ある委員会の運営であるような感じがします。そういう中でも、やはり1人でも2人

でも多くの方が名誉区民になられることを、出てくることを願いたいと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

私はないんですが、ちょっと今聞いていて、なるべくもっとたくさん出てくるようにということ考えていきますと、やり方がちょっと、意見ということではないんだけど、感想めいたことなんですけれども、これはその前のヒアリングでは、名誉区民にこの人を推薦していかというようなことで諮問があつて、諮問があつたときにこの委員会を開催して議論をする、そういった流れですので、もともとの諮問がないと開催しないというようなことで、この令和2年度は開催なしというようなことになったと思うんですね。

もっとどんどん増やそうということであれば、むしろ逆にして、選定委員会でいろいろな議論をして、この人を推薦したらいいのではないのかというようなことを挙げていって、それを受けて区がどうするというようなことで検討するという方法もあろうかなとは思うのですが、それをやっていくと選定委員会でかなりかんかんがくがくの議論をしなければなりませんし、また、様々なジャンルのことを知っている委員がいなければバランスが悪いというふうにもなってきますので、なかなかそのようにするのも大変だなというふうに思いましたので、ここではあえてそういった意見は書いていないですけれども、ここでの感想めいたことで、特に意見として書く必要はないだろうというふうに思いますけれども、そんなことを思いました。

何か他の委員の皆さんからでも、補足というようなことはありますか。よろしいですか。

特にこれはあえて意見がなければ、それでよろしいということなので、これでよろしければ、次に行きたいというふうに思います。

次は558番のほうで、これは名誉区民があつたときには周知をするという事業でありまして、実績がなかったからやっていないよというようなことで、これは取組状況が評価できないというようなことで斜線が引かれているところです。それに対して、これは3人の委員からご意見がありますので、順番に見ていきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

【委員】

やはり講演会ということで、一つ挙げさせていただきまして、やはりそこに参加することによって親しみを感じたり、あと、そういう人が何をして何に考えを持っているのかということを知る機会になるかと思っておりますので、やはり親しみを感じる上でも、講演会等というのは欠か

せないものだというふうに感じています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

名誉区民の講演会がなかったので、区民招待も行えなかったということだったんですけども、動画配信などの機会を作ってもよかったのではないかと感じました。特に、伝統芸能など一般区民になじみのない名誉区民の方の存在が、こういう方が新宿区にいるというのは貴重なことだと思うので、そういう機会があればよかったのではと感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、やはり名誉区民になられた方のお話を直接その方から聞くことにより、その方がいかに苦勞なさってそういう功績を上げたかということが分かることと、その人柄がやはりみんな聞いていて、親しみが湧くんじゃないかということなので、やはりぜひ、特にお子さん方はそれにおいて目覚めるというか、発展するというか、今、特段オリンピックのこと話しちゃいけませんけれども、やはり小学校あたりでは、これはすごいということでチャレンジしていくような感じになりますので、ぜひこういうものの講演会はやっていただきたいなと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

これもちょっと今、聞いておりますと、新型コロナウイルス感染症の影響により、名誉区民が出演する講演会等が中止となったのですが、動画配信などで配信するのはどうかという意見があったんだということで、区のほうにお伝えしていきたいというふうに思います。

それでは、よろしいですか。何かあったらご発言いただきたいと思っておりますけれども、よろし

ければ559の新宿クリエイターズフェスタのほうに行きたいと思います。こちらもまた実施されていないということで、斜線ということで、評価が内部ではされておりましたが、それに対する意見ということですね。

こちらも委員からご意見ありますので、お願いいたします。

【委員】

令和3年度も中止ということで、なりましたけれども、こうした期間だったとしても、商店街の皆様とか、協賛いただいている企業の皆さんとか、たくさんの方の成り立ちで運営ができるわけですので、やはり各種団体の方々と連携を図って、今後、やるやらない問わず、やはり常にコミュニケーションを取りながらやっていくということは大事なというふうに思っています。やはりアートを通じての魅力ある新宿を発信するという上でも、今年度やるから、じゃ、すぐということはいかないかと思っておりますので、やはり準備にいろいろな熟慮を重ねて、よりよいものにしていくということは、準備期間というのもとても重要になってくるという部分を感じております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

では、次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、今、親御さんで結構いろいろなところでイベントというか、子供のためのあれをやっているところで、出かける様子をよく見るんですけども、そういうことの意味でも、やはり作品展というか、親子で参加できるものはどんどん取り入れてやっていただいたらと思います。ただ、問題はやはり昨年度、今年度、コロナということでできませんでしたが、何かほかで、例えば、商店街で何かこういうのがあるよということは、やればよいと思うんです。ただ、言えることは、今、小学校の学校自体が子供たちをあまり外に出させないということなので、ちょっとその辺が難しいなと思っておりますけれども、やはり親御さんで習うことにおいて、親子の関係もつながるし、子供のそういう芸術的なあれが芽生えてくるということで、必要でないかと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。これは、新宿クリエイターズフェスタ2020実行委員会が書面開催をして、実施しないというようなことを決めたということなのですからけれども、内容自体は関心を持っているような事業ですので、ちょっと残念だったなというようなところがありましたということで、お伝えしたいというふうに思います。創意工夫の余地というものがあつたのか、なかつたのか、やる側からするとなかなか難しいというようなことで、結局中止してしまいましたけれども、外から見ると残念だったということかなと思います。

よろしければ、次に行きたいと思います。次は560番の事業ですね。新宿未来創造財団助成事業ということです。

こちらのほうもお三方、意見がありますので、お願いいたします。

【委員】

運営助成の予算の現額というのは、ちょっと書かれていなかったのので、記載させていただいたんですが、やはりいろいろな運営に当たっても、いろいろなこれだけの数々のものがやはり用意され、準備されているなというのは知らなかった分、これで分かったというのは正直な感想のところでは。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、次、お願いいたします。

【委員】

私も経常事業の取組シートで知ったようなことなんですけれども、ふだん目にしている高田馬場の流鏑馬の公開とか、林氏墓地の公開というようなことなども、広報紙などを通じて知っている事業なんですけれども、そういった区内の文化財の普及啓発をやっているということで、なかなか区民には伝わりにくいので、広報紙などを通じてもう少しPRしてもいいのではないかなと感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私のほうで一番感じているのは流鏝馬ですね。流鏝馬が歴史上で非常に、歴史を残す意味で、皆さんに見てもらえると、すごく感動して、特に、ここは高田馬場と書いてありますけれども、穴八幡の流鏝馬も結構、9月に行われているんですけれども、今はコロナでやっていませんけれども、そういう意味では、そういうものを昔の人がどういう、一種のレクリエーション的な意味での、簡単に言えば、だけど、スポーツも絡んでいるし、そういうのを見ていただいて、昔の人はこういうことをやっていたんだとか、あるいは自分自身もそういうことを経験したり、あるいは、いろいろな意味のところへ行って体験してもらうことが必要でないかと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

委員のご指摘なんですけれども、予算の現額が書かれていないというようなことなんですけれども、これはちょっと私も分からなかったもので、事務局で何かこれはお分かりになりますか。

【事務局】

事務局でございます。予算現額が書かれていない理由ですが、区から新宿未来創造財団に対して補助金を支出しておりますが、地域振興部の予算で一括して執行しているものですから、文化観光産業部の予算としては実績がないため、予算現額などはバーになっています。その補助金を活用し、財団で予算組みをしていきますが、ここに書かれている事業に限らず、そのほかにも多岐にわたる事業を実施しているというところもございますので、金額的な内訳は示されておられません。

【部会長】

ありがとうございます。いかがですか、そんなことなんですが。

【委員】

今の説明で分かりました。大丈夫です。

【部会長】

その辺が分かりにくい書きぶりだったので、要望するとなれば、その辺をちょっと分かりやすいように書いてくれということを要望するというのはいいのかなとは思いますが、仕組みについて説明してもらって、その後、未来創造財団のほうではこういったことをしたんだとい

うようなことを区民に分かるように説明をしてほしいというふうに要望したいというふうに思っています。

内容自体はそのほか、もう少し、せっかくいいことをやっているんだからアピールをしてくれということかなというふうに思いました。

よろしければ、次に行きたいと思いますが、561番の文化財保護審議会の運営ということです。

こちらもご意見、お二人ありますので、お願いいたします。

【委員】

今回もこの取組内容とか実績が記載されていましたので、審議内容を見ても、おおむね運営をされているなというのが分かりました。やはりこういうふうの実施の内容が書かれていると、こういう場所でこういうことがされていたんだというのは理解が深まっていくものだなというふうに感じています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは意見というよりは、審議会の委員の方はどういう方がやっておられるのかと。なぜかという、やはりこういうあれは相当な知識が必要なので、ということで書いたら、ご丁寧に書いていただいて、文化財の文化に専門的な分野に詳しい方を選んでおられるということで、非常にほっとしたような感じがしております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。委員の内訳なのですけれども、ヒアリングのときに聞いておけばよかったのかもしれないけれども、事務局から何か分かりますか、どんな人が委員になっているかということなんですけれども。

【事務局】

事務局です。調べて後ほど回答させていただきます。

【部会長】

では、ちょっと補充調査みたいな感じになりますけれども、それをお願いをいたします。
お願いいたします。

【委員】

ちょっと書かなかったんですけれども、文化財保護審議会を新宿区のホームページで見たんですけれども、審議会が、今年度は書面か何かで開催されたということは書いてあるんですけれども、会議内容については非公開ということで、個人の名前とかそういったことが出てしまうので、非公開と書いてあったんですね。ただ、ここでおっしゃったように、審議の内容に出た、例えば吉田博の旧居跡とか、こういった名前が出るということは、区民にとっても、こういう文化財の候補になるようなものがあるんだということが分かって、いいのではないかなと思うので、ある程度公開してもいいのではないかなと思っています。ホームページのほうでは、委員の方のお名前はあったんですけれども、会議の議事録については非公開ということになっていました。

【部会長】

すみません、委員名はホームページに載っているんですけど。

【委員】

はい。

【部会長】

仕組み自体は、条例設置なのですけれども、多分、条例だと何名以内の学識経験者からなる委員会だというようなことが書いてあって、それ以降は、どんな形で選んだのかというようなことについては、条例では特に公表の多分、義務は与えていないと思うので、区のほうで、自治体によっては委員名公表しているところもあるし、公表していないところもあるということだと思うんですけれども。

【委員】

委員の名前はあるんですけれども、役職とか肩書きとか、そういうのは出ていないです。中川会長、湯浅副会長、稲木委員と、そういうような感じでお名前だけ載っています。

【部会長】

所属なんかも載っていないですかね。

【委員】

はい、載っていません。

【部会長】

多分、大学の教員が多いのかなと思うんですけども、何とか大学教授だとか、多分それが出てくれば、今はネットでその人がどういう専門なのかというようなことも分かると思うんですけども、ちょっと調べていただくとして、分かったほうがいいということなんですかね、だとするならば、もし載っているのであれば問題ないと思いますけれども、載っていないようであれば、委員名簿というようなものも公表したほうがいいのではないのか、そんな意見のかなと思いますけれども。前段がはっきりしないので、こういう場合はこう、こういう場合はこうということで、分かるようにしてほしいという意見があったということぐらいでよろしいですか。

ありがとうございます。では、そのような形で、事務局のほうも含めて、よろしくお願ひしたいと思います。

次に562番、文化財保護保存調査等、こちらのほうですね。

【委員】

文化財保護保存は、やっぱり私たちにとって自然界や人類の歩みを知る、あと後世に残すということも、つないだりというのは一番大事になってくる調査だと思いますので、やはり引き続きこのことを行っていく上で、やはり新宿区の郷土に対する知識だったり、また愛情だったりというものが育んでいく上で大事な事業だというふうに思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

では、次、お願いいたします。

【委員】

取組シートに書かれている文化財の説明板などの維持管理など、地味な仕事ですけども、地域の文化のレベルを維持するためにも大切な役割だと思っています。そういった新設について常時検討しているのか、要望があれば検討しているのかということなんですけれども、多分されて作っているということなんだと思うんですけども、そういったことを大事にしたいと思っています。この文化財保護保存調査等とひとくくりになっているんですけども、

調査とか保護保存とか、あるいは歴史博物館での文化財の公開など、かなり事業も広くて、予算的にも大きなものなので、大事な事業だというふうに感じています。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私は、文化財を保護したり、文化財を調べるということは何にもかかわらず、やっぱりお金が大分かかると思うんですね。これは重要なことなので、ある程度かかるのはやむを得ないと思っております。ただ、言えることは、やはり保存を大事にしていくということが必要でないかと思っております。あと、そういう歴史上の保存物を大事にしていくということがいろいろな意味で必要でないかと思っております。せっかく保護したものが何かの形で崩れたりなんかしないように、やはり保存してもらえたらと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

文化財の保護って重要ではあるんですけども、大きな建物を造ろうと思って地下を掘ったら出てきちゃった、出てくると、保存すると、その建設事業が中止になるというようなことがあって、結構その辺で、所有権者の財産の活用というような要請と、文化財を保護していくというようなことはバッティングする部分があって、しっかりどれだけやっていくんだろうか、結構大きな問題だろうとは思っているんですけども、一応ここで出てきているところでは、特段、こういったことをやりましたというようなことでありますので、それ以上の問題はここでは問題にはなっていないようにも思いました。ということで、取りあえずこれはよろしいでしょうか。

その次に行きまして、563番ですね、文化財協力員の活用というところになります。

こちらのほうもお願いいたします。

【委員】

文化資源の掘り起こしや、また、その記録の保存ですね、これに関して区民が興味を抱き、そして参加できることはとてもいいことだなと、やはり新宿区に対してどれだけ活用しているかとか、また、どういうふうに保護に取り組んでいるかということが垣間見れて、いい内容に

なっているんじゃないかなというふうに感じています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

地域の文化とか歴史に興味を持って、さらに造詣の深い区民というのは多いと思うので、引き続き活用してほしいと書かせていただいたんですけども、ただ、文化財協力員というのが今どういう形になっているのか、ちょっと検索したら、10年ぐらい前に文化財協力員の資格講座みたいなのがあったようなんですけども、それ以降そういった講座もないようなので、人数も25名と少ないので、そのとき活用しようと思ったけれども、もうそれで止まってしまったのか、今後も活用していこうと思っているのか、そのあたりをちょっとお伺いしたいと感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

ここに書いてあるように、地域の文化財に関する情報収集や活用、新たな文化資源の掘り起こしや記録保存に区民が参加することで、文化財や地域史の関心を高めていくのではないかと考えております。それから、区の文化財行政の理解も高まるし、また、今後のために、この文化財協力員の養成をしていただいて、若い人にもどんどん興味を持っていただいて、そういう方にやっていただけたらいいなと考えております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

文化財の保護、本来であれば、遺跡が発掘されれば、そのまま保存できればいいわけなんですけれども、そうしますと新たな開発事業ができなくなってしまうというようなことがあって、その中間的なところとして、こういったものがあつたんだというようなところで記録保存にな

るかと思うんですね。文化財の保護と開発のどっちが強いかというと、バランス的には開発圧力というようなものが強いので、それによって文化財の保護がなされないというようなことが結構指摘されているかと思しますので、行政の中でもどちらか強いのかというと、どちらかといえば開発圧力のほうが勝ってしまうわけなんですけれども、それを区民の視点から、どうするのかというようなことで、それをチェックするための仕組みとして、この文化財協力員というものがあるんだろうというふうに思います。位置づけ、私もちょっと、法的にこういったものが置かれなければいけないものなのか、それとも区が独自にやっているのかが分からなかったわけなんですけれども、こういった取組はいいなというふうに感じましたので、もし区の独自の取組であるとするならば、すばらしいなというふうに感じたところでございます。皆さん方の意見もそういったことだろうと思しますので、事業は適切だったかなということで、よろしいように思いました。

よろしければ、次に参ります。次は564番、夏目漱石記念施設整備基金積立金というところですね。

こちらもご意見、お願いいたします。

【委員】

漱石山房記念館では、施設整備基金に寄附された方のお名前が記載されてありまして、そのときに併せてこの基金、寄附されたものが、いつどのような資料を収集したのかということ、掲示板みたいな形だったんですけれども、お示しがあると、こういうものが収集されて、今後どういうふうに生かされるんだなというので、先の想像を膨らませることができたりして、いいのかなというふうに感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、ちょうど夏目漱石の記念館ができるときに、ちょうど榎地区の町会連合会のほうでも副会長をやって、新宿区町会連合会のほうで理事になった、ちょうど中山区長がおられるときだったんですけれども、一応、初めということで、ぜひということで、地元なので、積立てをさせていただいた記憶があります。その後やはり何年かたっていますので、いろいろな

意味で記念館の整備及び資料収集のため、特に資料収集は区の方が非常に苦勞してやっておられるのを聞いているし、実際1人、知り合いがいたので、聞いておりますけれども、ぜひそのためにも基金は募っていただいて、寄附していただいて、それを有効に使っていただくということが必要ではないかと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。こちらは事業の内容が整備資金の積立金ということで、区が基金を積み立てる予算を支出したということだけだと思うんですね。それで、もらったほうの基金側がどういった資料を収集したのか、これが出てこないわけなので、同じような形でというか、先ほど見た560番の事業の取組内容で、こんなことを集めたというようなことが書いてありますので、それと同じような形で、もらったものをどのように使ったのかというようなことを記載してもらえると分かりやすいのではないのかというふうに思いましたので、書きぶりとしては、資料収集のためにお金を支出しましたよ、もらったよというのが、主なものとしてはこんなものでしたというようなことを書くようにしてもらいたいというような意見を上げてみたいと思います。ということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。

その次が565番、ミニ博物館の充実ということになります。

こちらもご発言お願いいたします。

【委員】

今回、ミニ博物館8館ということで、これ初めて知りましたので、やはり知らないことって多いんだなというのが一番の印象です。これをきっかけにいろいろ訪ねてみると、やはり先ほどもお話ししましたように、自分から発信していくということもそうですし、いろいろな機会を通して、やはり目に触れたりするということは非常に大事だなというふうに感じています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

では、次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、この8か所あるうちに、熊野の神社と十二社ですか、あともう一つが須賀神社

ですか、この辺がちょっと、博物館とは知らないで見学した記憶がございます。ただ、やはり博物館ということで見ることになる、ちょっとまた見方が変わってくるんじゃないかなというところで、ぜひ近々、時間があれば足を運んでみたいなと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。確かに、予算の問題もあるのかもしれませんが、もっと分かるように広報してもらえるとありがたいなというような感じがいたしました。

その次に参りたいと思います。566番なんですけれども、新宿歴史博物館の管理運営ということですね。

これは私の意見を書いているので、私から発言させていただきます。指定管理者による会館運営事業の評価について、区がどのように指定管理者を評価しているのかという観点が必要ではないか、そして、外部評価ではそのような区の内部評価について評価をするという構造が適当なように思われるというようなことを書きました。これはほかの指定管理者による会館運営事業全てなのですけれども、この場合ですと、新宿歴史博物館がどんなことをやっているというようなことが書かれているわけなんですけれども、その指定管理者がやっている取組内容について区がどのように評価をしているのかというようなことが書かれていないので、その辺を書いてくださいねというのが要望になります。

ということで、次に参りまして、お願いいたします。

【委員】

私も新宿歴史博物館のほうに行ってみまして、やはり先ほどのメンバーズクラブというのが利用促進のために置いてあったんですけれども、そういったものの活用もそうなんですけれども、何かやっぱりきっかけがないとなかなか足を運んだり、利用したりというのはないので、そういったものを踏まえて、積極的に目を配っていきたいなというふうに感じた次第です。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

では、次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、似ているんですけども、やはりメンバーズクラブができて、それがいろいろな意味でそこを利用する人が増えるんじゃないかというような感じを受けております。特に、早速入られたということで、大したものだなと思っておりますけれども、こういうことにやっぱり本人が積極的に参加することにおいて、みんなに話すことができるということなので、私もぜひ近々。ただ、行くことは行っているんです。ということは、歴史博物館はいろいろな意味で私のほうの近場なので、ちょっとお邪魔することはありますけれども、中をじっくり見るということは別になので、ちょっと見て帰ってくるという感じなんです。あともう一つは、いろいろな意味で、やっぱり新宿歴史博物館という名前が書いてありますので、やはり博物館がどういう内容をしているのかということが、今、小学校、中学校でもここを見学することが多いと思うんですね、そういうことで我々もそういう、実際自分が見学して、皆さんに広めていったらいいなということを感じております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

私の冒頭のことなんですけれども、多分、取組内容というものが書かれていて、区の評価って、内部評価としてみれば、適切というようなところにチェックされていて、それだけではあるんですね。包括的には多分、適切だというふうに区も考えているということは分かるんですけども、もう少し本当はやり取りがあるんじゃないのかという感じはしているので、全般的に総括すれば適切かもしれないけれども、部分的にはこうしてほしいですとか、そういった要望があって、それに対応したから適切というふうになったんじゃないのか、そんな気がするんですけども、その辺の過程がこれだけでは何も見えてこない、最後の適切という言葉だけになってしまっているんで、もう少し何か丁寧というか、こういったところに対してこういう要望をしたらこう応えてくれたとか、それに関連して契約内容を変更したですとか、何かそういったものがあると区の取組というものが分かるんですけども、それがちょっと見えてこないなというような感じがするということであります。意見だから、そんなこともあったということですかね、そんなことで取りまとめをしていきたいというふうに思います。

よろしければ、次に参りますが、次は林芙美子記念館の管理運営ということになります。567番ですね。

意見については、これも私、一番先にありますけれども、全く歴史博物館と同じものになりますので、特段繰り返すことはしないということにしたいと思います。

次、お願いいたします。

【委員】

私もこれは同じで、メンバーズクラブの一つの林芙美子記念館になってきますので、さっき各委員の方おっしゃっておりますように、やはりメンバーズクラブを実際にやってみると、いろいろな施設を回れて、もっといろいろな意見が充実したものが出るんじゃないかというふうに感じていますので、私も早速、作ってみたいなというふうに思った次第です。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

では、次、お願いいたします。

【委員】

林芙美子記念館はすごく近くて、散歩コースなんですけれども、落合公園から妙正寺川という、雨が降ると非常にすぐに洪水になってしまったところが今、工事をして調整池になって、すごく穏やかな川になったんですけれども、そこら辺の散策拠点として、中井周辺のとても緑の豊かな魅力的な記念館です。中井の一の坂から六の坂まであって、そういった傾斜地なので、反対に開発が進まなかったという利点があって、古くからの家そのまま残っているの、そういう背景も含めて、このままの環境維持で管理していただきたいなと思っています。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、林芙美子の記念館は一、二回お邪魔したことあるんですけども、やはりにぎやかな、要するに、穏やかな、新宿とはちょっと違った雰囲気、落ち着くような感じの住宅街の中にあるので、また違った意味の新宿のよさが分かるんじゃないかと思います。また、中に入っても、やはり昔の住宅の中の一角ということなので、そういう意味でも、林芙美子さんが住んでおられたということで、すごく関心を持っていただけるのではないかなというふうに考えて、書いておりました。ただ、管理運営ということで、先生がおっしゃられているように、

その辺まではちょっと考えてはいなかったんですけども、ぜひやはりそういう意味で、林芙美子記念館を宣伝していただくと、多くの方が来ていただく、特に駅に近いということなので、ぜひそういうことでお願いしたいと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

今年度、コロナの関係で現地視察、中止になってしまったので、ちょっとお話いろいろ聞いていると、行きたかったな、残念だったなという感じがしました。

その次に参りたいと思います。568番、佐伯祐三アトリエ記念館の管理運営ということですが、私は同じですので、省略させていただきまして、お願いいたします。

【委員】

洋画家の佐伯祐三氏の「テラスの広告」という切手を目にしたきっかけが、ボランティアで使用済みの切手の整理をしまして、ちょうどその、新宿区に佐伯祐三アトリエ記念館があるということも同時に分かって、やはりそういったものを目にしたことによって、またアトリエ記念館ですね、赴くきっかけとかもできたので、やっぱり新宿区民として皆さんが大事にしているこういった記念館や施設ですね、もっといいものをもっと自分の中に取り入れる工夫というものは必要じゃないかなというふうに感じているところです。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

こちらも近くで、記念館になる前に、まだ公開されないで古い佐伯祐三のアトリエがそのまま残っているということで、建物だけ塀の陰からちょっとのぞいていて、それが記念館になったということで、記念館が閉館のときも公園として庭には入って、外から外観が見られるというような状況です。ただ、いかんせん建物も小さくて、実はアトリエを切ってしまうと、全部残したのではなくて、切った一部が残っているということで、見学するところもちょっと少ないので、なかなかわざわざ行きづらいところですけども、近くに聖堂の建築が有名な聖母病院とか、地域センターとかもあるので、そこら辺の、ちょっと足を延ばすと、おとめ山公園と

か、中村彝のアトリエとかあるので、そこら辺を散策コースとして、落合地域の魅力の一つになればいいなと思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

私のほうは、そこのアトリエだけじゃなくて、林芙美子さんを見ていただいて、こちらは小説家さんなので、今度は画家ということなので、ちょっと違った味が見えるということ、問題は、落合の中にあるので、ちょっと散歩がてら行っていただくのがいいんじゃないかと思っています。また、いろいろな意味で、中の設備が傷んだりなんかするので、それも補強して、いろいろやっていただいたらいいのかなと思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。場所の問題はもう動かすことはできないと思いますので、周りの環境の状況を踏まえながら、よりよい取組というのかな、コースの設定ですとか、そういったことをしていただけたらというふうに思っていますが、運営自体は、多少そういった要望はあるのかもしれないですけども、基本的には適正で、よろしいだろうというふうに思います。

次、569番、中村彝アトリエ記念館の管理運営。

意見については私は相変わらずというか、指定管理者ですので、同じです。

意見のほう、これも567と。

【委員】

そうですね、同様に。

【部会長】

何か補足があれば、お願いしますけれども。

【委員】

特に、大丈夫です。

【部会長】

分かりました。ありがとうございます。

では、お願いいたします。

【委員】

こちらも佐伯祐三記念館と同様、小さな記念館なので、なかなか維持も難しいと思うんですけども、地域の記念館として維持管理していただきたいと思います。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

中村屋美術館というのは、これは中村屋さんが持っているものだから、公立ではないということなんですかね。

【委員】

そうなんですけれども、中村彝が中村屋のところで保護というか、されて、中村屋サロン美術館にも所蔵品とかがあるので、そういったところで連携して、同じ新宿区なので、そういった企画とかもいいのではと感じています。

【部会長】

なるほど。公民連携というような感じが求められるなということで、ちょっとこれは意見として。

【委員】

はい。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私は568番の佐伯さんと同じように、やはり林芙美子さんと佐伯さんと中村さんはまとめて見学していただきたいなという感じで、いろいろな設備なんかもそのとき、そのときに、壊れない程度に保存方法を考えていただきたいなと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、570番ですかね、漱石山房記念館の管理運営に行きますが、お願いいたします。

【委員】

来館した際に、やっぱりテーマ展示ということで、夏目家の人々、漱石の家族というのを行われていまして、新型コロナウイルス感染症の対策として、グッズ販売では商品写真のプレートで設置して、商品の非接触型を取り入れたりして、来館する方をお招きするに当たってもいろいろな工夫がされているというのを感じたところです。やはりお迎えするに当たっても細心の心配りをしているなというので、非常にありがたく思った次第です。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

次、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、やはりほかのものと同じように、区民の方々の利用者に対するサービスの向上ですね、サービスの向上ということは、いろいろなイベントを検討していただいて実施していただくと、また、施設の整備とか展示の整備も計画的に実施で、施設を有効活用した施設、漱石山房祭りをやったり、多目的室を活用した展示を実施することにより、魅力的で親しめる博物館となり、文豪夏目漱石にふさわしい漱石山房記念館になるんじゃないかと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

おおむね適正に管理運営されているということだと思います。

571番に参りまして、文化芸術振興会議の運営ということです。

ご意見をお願いいたします。

【委員】

コロナ禍なんですけれども、取組内容、実績として、会議開催の状況で、芸術振興会議が3回、専門部会が2回、報告会が1回というふうになされているので、きちんと運営されているのではないかというふうに感じているところです。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

私のほうは、新宿区における文化芸術振興に関する会議を今後も進めてお願いしたいということを書いております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。これも適切に運営されているということだと思います。

572番に参りまして、乳幼児文化体験事業ですね。

こちらのほう、お願いいたします。

【委員】

オンライン配信によって、やはり親子で一緒に見たいときに見られたり、あと、また繰り返し、もう一度、場面がよかったということで、見られたりということで、そういった気軽、手軽に文化芸術を体験できるということはすばらしいことですし、やはりそういったものが浸透していくということは、心が豊かになって、いろいろないい波状効果が生まれるかというふうに思いましたので、このオンライン配信というのはとてもいい取組ではないかなというふうに感じているところです。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

小さな赤ちゃんがいて、なかなか観劇とか音楽鑑賞に連れていけない家族、保護者への鑑賞の機会を作るということで、とてもいい企画だと思っています。コロナ禍の中、出かけられないので、オンライン配信というのがいい機会だったと思うんですけども、乳幼児をホールに連れていくという、そういう体験させるということに意味があったのか、今後もオンラインでも続けていったほうがいいのか、そういったことも検討していただけたらと思います。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。少し工夫が必要なところもあるのではないのかということかなと思

います。

お願いいたします。

【委員】

私のほうは、この乳幼児文化体験事業を行うことにより、子供の生きる力と豊かな心を育んでいくと、特に乳幼児というのはこれからの子供ですから、一番思い出に残る感じだと思っております。文化芸術の次代の担い手の育成という観点からも必要ではないかということなので、ぜひ進めていってほしいと思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

では、次に参りたいと思いますが、573番、国内友好都市交流の推進ということで、お願いいたします。

【委員】

区役所ロビーでは長野県伊那市の地理や特産物等を知ることができまして、やはりいろいろな地域がある中でも訪れてみたいというきっかけ作りの一翼を担っていると思いますので、そういう機会というのはとても大事になってくる部分だなというふうに感じております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【委員】

現在はないということなんですけれども、伊那市以外の友好都市の検討があるのか、そういった相互の情報発信とか、小中学校との交流というのがあってもいいのではないかなと感じました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。事務局に確認ですけれども、友好都市は伊那市以外にはないということでもよろしいのでしたっけ。

【事務局】

事務局でございます。そうですね、友好都市としては伊那市ということになりますけれども、ただ、海外に北京ですとかギリシャのレフカダですとか、そういったところがございます。

【部会長】

どうもありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

【委員】

私のほうは、お互いの地域でよいところを見習い、自分の地域にないものを取り入れていくこと自体でお互いの地域の発展、地域住民、意識改革のためにも好ましいと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

国内友好都市の交流の推進なんですけれども、実はこれ、意見として入れるべきなのかどうか、ちょっと分からなかったんですけれども、伊那市の市長は白鳥市長さんとおっしゃるんですけれども、白鳥市長さん自体は新宿区の商店会ともっと緊密に連携をしたいんだと要望があるんですね。実は私ども新宿区内の八百屋、肉屋、魚屋は、去年はなかったんですが、その前、ですから3年前、何しろ3年続けて伊那に産地視察へ行っているんですよ。より、市長さんからは、連携をしたいということなんだけれども、ここの担当課が文化観光課ということになると、文化観光産業部の中にある産業振興課ならば、まだ商店会の連携ということもあり得るんだけれども、文化観光では課としては違うので、いわゆる、向こうは商店街と連携をしたいんだということであるならば、担当課の変更みたいな形を言うべきなのかどうか、区民目線でということの話が一番最初にあったものですから、ちょっとそのあたり、お考えいただければと思います。

【部会長】

なるほど。文化観光と産業ってちょっと、部としては一つですけれども、やっている内容は違ってきているので、課のレベルになってくると、新宿区では分かれちゃっているけれども、もしかしたら伊那市のほうでは同じ課のレベルで一緒なのかなという感じもするので、その辺のちょっと連携がうまく取れていない感じがしますので、その辺で、何をするのかというよう

な会議体みたいなものがあつたらいいのかなと思うんですが、その辺の仕組みがちょっと分からないので、そういった問題点があるということの指摘だけに留まるのかなというふうには思いますが、少し意見としては書かせていただいたほうがいいのかというふうに思いました。

今日、全部終わらないと思うので、まだ2日目、あさって同じ日程が組まれておりますので、残りですね、574番以降は次回に回そうと思っております。ということで、今日の検討はここでおしまいにさせていただきますして、事務局から事務連絡がありますので、そちらをお願いしたいと思います。

では、事務局、よろしくお願いいたします。

【事務局】

事務局でございます。先ほどの573番の国内友好都市交流の推進のところ、新宿区との友好都市というところですけども、国内ですと、先ほどの伊那市というところですが、海外ですとギリシャのレフカダ市、ドイツのベルリン市のミッテ区、また、先ほど北京市ということでお話しいたしましたけれども、中国北京市の東城区というところで、3か所が友好都市となっているということでございます。海外を入れると計4か所と。

【部会長】

あと、文化財保護審議会でしたっけ、そっちのほうの委員がどんな形で紹介されているのかみたいところは、宿題でよろしいですかね。

【事務局】

調べさせていただきます。

【部会長】

すみません、お願いいたします。

それでは、一応、宿題はそんなところかなと思うけれども。

【委員】

不勉強で申し訳ないんですけども、伊那市と友好都市になったきっかけみたいなのが分かれば、教えていただきたいんですが。

【部会長】

聞き取れなかったので、ごめんなさい。

【委員】

長野県の伊那市と友好都市になった理由というか、きっかけが分かれば、教えていただきたい

いんですが。

【部会長】

分かりました。では、伊那市ですね、国内では伊那市だけということだと思しますので、なぜ伊那市が選ばれたのかということですね。

【委員】

はい。ギリシャのレフカダ市は小泉八雲の出身地というふうにお聞きしています。

【部会長】

なるほど。

【事務局】

事務局でございます。区ホームページに友好都市となった経緯のようなものが書かれているところがございますけれども、伊那市については旧高遠町と新宿区が昭和61年に友好提携を宣言したというところがありますが、伊那市についてはそれを引き継ぐ形で、平成18年3月31日に、それまで友好提携が進んでいた高遠町と伊那市と、また長谷村が合併して生まれた都市というところですが、新宿区と旧高遠町との縁は江戸時代に遡るところで、現在の新宿御苑一帯が高遠藩主内藤家の下屋敷であったということで、その一部が新しい宿場、内藤新宿となった関係から、相互交流によって友好を深めたということです。ちょうど20年前に当たる昭和61年に旧高遠町と友好提携を宣言したというところですが、町が持つ歴史の記憶が多くの人によってつながれ、地域の皆さんが主役となる形でこれが育まれてきたというところで、旧高遠町との友好関係がさらに発展することを願って、平成18年に新宿区と伊那市は友好提携を宣言したというような経緯ということでございます。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

ありがとうございます。

【部会長】

高遠町と言われると何となく分かったけれども、伊那市と言われてしまうと、なかなかつながらなかったようなところがありました。

どうぞ、お願いします。

【委員】

補足という大変、事務局に失礼なんですけれども、高遠町との付き合いはそれこそ昔からの部分がありまして、それで今、教育委員会の委員長も内藤家の先生がやられているというぐらい、それで、実は豊島区は姉妹・友好・交流都市86、かたくなに新宿区は国内は伊那以外は、要するに高遠町以外は友好都市やらないと、どうしてそんなにかたくななのかというふうに区民が聞くぐらい。勝手に言っているのは、新潟の新発田市、堀部安兵衛の生まれたところという事で、高田馬場の仇討ちをやったから新潟の新発田は友好都市にしてくれとか、いろいろ言ってくるぐらいの話でした。

【部会長】

断るのはどうかと思うけれども、国内友好都市交流の推進という項目だと、伊那市だけに限るといのが、現在は伊那市だけかもしれないけれども、国内友好都市を増やすとか、そういった議論も一つあるのかもしれないので、それもちょっと意見としては入れてもいいのかなという感じはいたしました。

いずれにしても、取りまとめ、全部あさって終わってからですけれども、終わった後、見ていただく機会がありますので、その際に何か意見があれば、おっしゃっていただくようにしたいと思います。

ということで、ほぼ時間どおりだと思いますけれども、これで今日の会議のほう、終わりにさせていただきます。またあさって、同じく午前9時30分からということでお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、これで終了いたします。どうもお疲れさまでした。

<閉会>